

ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 〔2021年9月7日放送分・河原町／河原町横丁〕

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。放送とあわせてお楽しみください！

- 「奥州街道を江戸へ！」シリーズの街歩きも、いよいよ終盤。今回、私と木村浩二さんがめざすのは、河原町商店街の奥にある「河原町／河原町横丁」の辻標です。まずは、南材木丁の南端で暗渠となって道路の下を流れている六郷堀を越えます。
- 目の前には河原町のツインタワー…って、あれ？まっすぐ進んできた奥州街道が、昭和市電通りに吸収される形でなくなってしまいました。実は、ツインタワーのマンションの前で奥州街道は直角に曲がっていたのですが、今やその角は、大通りにのみ込まれてしまったのです。
- 「元・曲がり角」は車道のど真ん中なので、木村さん得意の妄想のため、そこに立つことすらできません！いやはや何とも。
- 七十七銀行の手前を左に入れて、河原町商店街へ。今スーパーマーケットがある所には、青果を扱う市場が大正時代まで存在していました。この辺りが、仙台東部の穀倉地帯で収穫された農作物の一大集積地となっていたことが分かります。

- 「河原町／河原町横丁」の辻標は、商店街奥のT字路にあります。この交差点、直角の頂点に後から東への道をつけたもの。この東に進む後付けの道は、「奥州街道を江戸へ！」シリーズで度々話題になった伊達政宗晩年の居城「若林城」建築に伴う登城筋として整備されたものなのです。
- そちらは後日じっくり確認するとして、私と木村さんはT字路を右折して仙台城下の南の出口へ…。「丁切根＝ちょうぎんね」という看板が立っています。江戸時代の人々は、ここから城下を出て本格的な旅人となったのです。
- ああ！このコロナ禍。私も江戸へ行きたい！！新幹線でね…。というわけで、1年半以上歩いて来た「奥州街道を江戸へ！」シリーズはひとまず完結です。ありがとうございました。コーナーはまだまだ続きますよ。
- 〈文・佐々木淳吾〉

